

	項目	はい (人)	いいえ (人)	未記入 (人)	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	16	1		・基準は守られているが、子どもの状況によっては狭く感じられることもあり工夫は必要。
	② 職員の配置数は適切であるか	15	2		・子どもの状況によっては、足りなく感じられることもあるが、職員ひとりひとりのスキルアップが必要。 ・普段はいいが、個別対応の時重なってしまうと、職員が少なく感じる時もある。 ・コロナ禍の為、休みの職員が重なると配置に苦慮している。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	17			
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	17			
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	16		1	・広く職員と言われると、主体性に欠ける部分もありそう。 ・時間の工夫をして行っている。 ・5Sの取り組みに力を入れて、職員の意識を高めている。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	17			
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	15		2	
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	15		2	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	17			・リモートによる研修を積極的に取り入れている。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	16		1	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	16		1	・発達評価は定期的に行っているが、その他のツールについての検討が必要。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	17			
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17			
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	16		1	
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	17			・その時の子どもの発信を大切にしている。 ・月別に考え、見通しがもてるよう工夫している。 ・子どもたちからの発信を活動に取り入れている。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	17			
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	16		1	・日誌や回覧、ホワイトボード等を利用して共有の機会を増やしているが、共有する時間の確保は要検討。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	15		2	・すき間時間とするなどの工夫が必要。 ・その場になかった職員には、日案を通して共有をしている。
	⑲ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	17			
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	17				

関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	16		1	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	17			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	17			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	17			
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	17			・入園前の連携及び書面報告を実施している。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	17			
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	15	1	1	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6	10	1	・計画的には実施できておらず、地域の公民館を積極的に活用することで、交流を目的としている。 ・併行通園でない児は交流機会は難しい。地域の公園などでの合同遊びなどの機会もあったら良いと思う。 ・コロナ禍の為、機会が少ない。 ・コロナ禍で交流が難しいが、公園等で会った時にあいさつをすることはある。 ・コロナ禍により、地域の行事が中止になっているため。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	14	3		・参加者は限られているが、その内容を周知するよう努めている。 ・朝礼などで報告があるとよい。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	17			
㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	16		1	・保護者交流会、グループワーク等行い支援を実施。	

保護者への説明責任等	㉜	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	16		1	
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	17			
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	16		1	
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	16		1	・コロナ禍で難しいが、小人数で実施をしている。
	㊱	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	17			・コロナ禍で実施が難しい期間も多くあったが感染対策を講じながら、保護者支援の充実を図るべく出来るだけ行えるようにしている。
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	17			・ドコモのBizを活用し、タイムリーに発信、療育内容、目的等についてはブログを活用。
	㊳	個人情報に十分注意しているか	17			
	㊴	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	16		1	
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4	9	4	・外部講師を招くなどして、外部とのつながりを作っている。 ・コロナ禍のため、散歩にはあいさつをするなどしている。 ・コロナにより地域行事がなくなったため、難しくなった。 ・コロナ禍で難しいが、消防訓練で消防署の方に来て頂いたりする機会があった。 ・コロナ禍の為、行事の実施が難しい。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	15	2		・職員間では共有できているが、保護者との訓練や内容の周知を必要と感じている。 ・保護者の周知はできていない。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	17			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	16		1	・マニュアル作成及び児童状況を看護師等中心に把握に努めている。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	17			・マニュアル作成等を栄養士中心に対応を徹底している。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	17			・回覧をし、職員間で共有を図る。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	16		1	・虐待について朝礼・職員会議で周知している。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	16		1	

**【全体としての改善目標】**

- ① 環境、体制整備・業務改善⇒感染及び災害対策を講じ事業の継続を図る。また、5Sの取り組みを継続・強化し、職員の意識改革及び業務の効率化に努める。
- ② 療育内容の充実と専門性の向上⇒外部講師による個別相談や療育指導を継続して実施。OJT, OFF-JTを連動させ、専門性及び実践力を高め、適切な支援を提供する。
- ③ 保護者支援の充実⇒ICT等の積極的な活用。ブログの更新を継続、チェックシステムを活用することで、センターでの取り組みをタイムリーに知っていただくよう取り組む。  
保護者交流会及び学習会など年間計画に基づいて実施。
- ④ 地域の連携・つながり強化⇒近隣施設や地域住民との交流を深め、発達障害への理解及びセンターの取り組みが広がるよう努める。
- ⑤ 非常時の対応⇒職員が発生時に適切な対応ができるよう、マニュアルに基づいた訓練実施及び見直しを図る。